

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

第 61 回全日本剣道選手権大会



優勝した内村良一選手に三笠宮瑤子女王殿下から天皇盃が手渡された

内村良一が日本一に返り咲き



決勝＝内村（右）が小谷に2本目の小手を決めて優勝

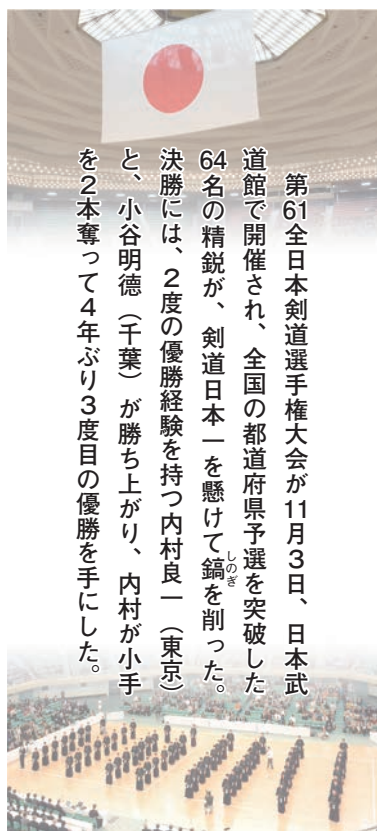
第61回全日本剣道選手権大会



準決勝＝内村（右）が安藤に面を決める



4回戦＝内村（左）が金成に面を決める



第61全日本剣道選手権大会が11月3日、日本武道館で開催され、全国の都道府県予選を突破した64名の精鋭が、剣道日本一を懸けて錦を削った。決勝には、2度の優勝経験を持つ内村良一（東京）と、小谷明德（千葉）が勝ち上がり、内村が小手を2本奪って4年ぶり3度目の優勝を手にした。

「いろいろな人の支えでここまで来られた。自分も誰かの力になれるよう成長したい」

□優勝Ⅱ内村良一 錬士六段（東京）

「全日本選手権に出場することは剣道家にとって一番の目標で、何回出ても憧れの舞台ですので、その大会で優勝できて本当に嬉しく、光栄に感じます。一年間の集大成として、自分の全てを試合場に置いてくるような気持ちで、一試合一試合を戦いました。」

小谷選手とは合宿などで一緒に稽古

したことがあり、お互い手の内も知り尽くしています。結果的に勝てたのですが、どちらが勝ってもおかしくない試合だったと思います。攻めの強い選手なので、気持ちで引かないようにと、そこだけを意識して戦いました。いくら良い技を持っていても気で負けていると、良い技は出ないと思います。技術よりも、打つ前の心が大事なんじゃないかと思って、いろいろな先生方から心の部分を教わってきました。

前回の優勝から、なかなか勝てない時期もありましたが、そのときに、いろいろな方に支えられ、お声掛けいただいた、何度も救っていただきました。弱ってどうしても立ち上がれないよう



なとき、先生方の一言で、もう一回やるぞという気持ちになることができました。何気ない言葉だったり、あるいは何も言わずに見守ってくださる先生もいました。周りの方が見てくださっているなと思うことが、今年は特にたくさんありました。

大切なのは優勝とかではなく、一回一回の大会で自分の力を出すことですし、そのためには一回一回の稽古の積み重ねなのだと思います。そして自分の力を少しでも高めて、剣道で強くなるだけじゃなく、支えてくださった方々のように、私も誰かの力になれるよう、人間的にも成長していきたいです」

試合は64名によるトーナメント戦で争われた。3本勝負で、試合時間は5分間、4回戦から決勝までは試合時間10分で行われた。時間内に勝敗が決しない場合は時間無制限の延長戦となる。

今大会では、64名中29名が初出場。前回優勝の木和田大起(大阪)は大阪府予選で敗れて出場ならず。また、58・59回と連覇を遂げた高鍋進(神奈川)も出場しなかったため、優勝経験のある選手は内村良一(東京)のみとなった。

「1」4回戦

第1ブロック

今年の警察選手権大会で優勝した網代忠勝(兵庫)が1試合目から登場するが、初戦で初出場の堤淳(愛知)に敗れ、早くも姿を消した。森祐輔(福岡)が、その堤を降して4回戦に進んだ。また、警察大会2位の小谷明德(千葉)が勝ち上がり、森と対戦することとなった。4回戦、両者の打ち合いが続く。終盤、森が面を攻めると小谷が小手を決める。森は反撃するが決め手のないまま時間となり、小谷が一本勝した。

第61回 全日本剣道選手権大会

段位	出場回数	氏名	選出県	対戦相手	結果	時間
六段	5	網代 忠勝	(兵庫)	②ド	○	10:47
五段	初	堤 淳	(愛知)	①	×	4:48
五段	6	鹿野 允成	(山梨)	①	×	12:35
錬六	初	松尾 太一	(長崎)	①	×	5:00
錬六	5	森 祐輔	(福岡)	②	○	3:19
四段	初	草薨 大心	(秋田)	①	×	5:00
五段	初	植原 俊樹	(群馬)	①	×	5:55
錬六	2	安部 朋宏	(香川)	②	×	8:21
五段	5	小谷 明德	(千葉)	②	○	1:13
錬六	5	小村 健	(島根)	①	×	15:31
五段	初	神部 栄司	(茨城)	②	×	7:56
五段	初	菅野 雄介	(奈良)	①	×	11:06
錬六	3	大重 貴浩	(宮崎)	①	×	3:54
五段	初	寺島 光紀	(富山)	②	×	24:28
五段	8	原田 賢治	(福島)	②	×	10:46
錬七	7	小関 太郎	(東京)	②	×	4:22
五段	初	松井 祐一	(京都)	②	×	5:00
五段	初	前田 浩由	(福井)	②	×	16:21
五段	2	小江隆之介	(山口)	②	×	5:00
錬六	2	橋本 桂一	(埼玉)	②	×	10:18
五段	2	中川 俊克	(岐阜)	②	×	5:00
四段	初	本川 亮介	(福岡)	②	×	5:00
五段	初	工藤 雄太	(北海道)	②	×	5:00
五段	初	正代 正博	(東京)	②	×	7:39
錬六	3	白石 賢史	(栃木)	②	×	4:29
五段	2	小山 秀弥	(長野)	②	×	5:00
五段	3	大石 寛之	(大阪)	②	×	5:00
五段	2	西山 弘一	(高知)	②	×	7:43
五段	9	高坂 雄介	(静岡)	②	×	4:24
錬六	2	鈴木 次彦	(岩手)	②	×	5:00
五段	初	勝見 洋介	(神奈川)	②	×	3:24
四段	初	嘉陽 宗隆	(沖縄)	②	×	
四段	初	三雲 悠佑	(滋賀)	②	○	5:06
錬六	9	東永 幸浩	(埼玉)	②	○	8:12
六段	3	大熊 健司	(広島)	②	○	5:05
四段	初	武田 直大	(宮城)	②	○	7:26
五段	初	金成 郁	(千葉)	②	○	24:34
五段	2	木村 友哉	(新潟)	②	○	6:11
五段	初	笠原 孝輔	(三重)	②	○	10:58
錬六	4	笹川 哲平	(佐賀)	②	○	5:22
四段	初	播本 尚嗣	(鳥取)	②	○	18:25
五段	初	仁科 文宏	(徳島)	②	○	7:30
四段	初	木谷 洋亮	(愛知)	②	○	5:00
六段	初	亀井 隼人	(神奈川)	②	○	10:06
五段	初	鈴木 啓太	(山形)	②	○	6:54
錬六	8	内村 良一	(東京)	②	○	4:19
六段	初	萩原 寿矢	(大阪)	②	○	7:33
四段	初	竹下 洋平	(大分)	②	○	2:46
錬七	10	米屋 勇一	(埼玉)	②	○	8:52
錬六	3	古川 耕輔	(大阪)	②	○	5:00
六段	初	原 誉典	(福岡)	②	○	14:36
五段	初	古畑 健吾	(青森)	②	○	20:05
五段	初	鳶津 貴之	(千葉)	②	○	7:08
五段	2	安田 巧	(静岡)	②	○	20:23
五段	3	西 裕幸	(鹿児島)	②	○	11:18
六段	2	西村 健	(兵庫)	②	○	12:25
五段	3	尾池 智行	(岡山)	②	○	11:22
四段	2	安藤 翔	(北海道)	②	○	7:21
五段	2	神野 洋平	(愛媛)	②	○	15:21
六段	4	海老原秀則	(茨城)	②	○	21:46
五段	2	山本 竜輝	(熊本)	②	○	5:00
六段	5	中村 直紀	(石川)	②	○	17:40
四段	初	藤岡 弘径	(和歌山)	②	○	
五段	2	濱崎 勇輔	(東京)	②	○	

優勝・内村良一(東京)

準優勝・小谷明德(千葉)

三位・正代正博(東京)
”・安藤翔(北海道)



4回戦Ⅱ小谷（右）対森



4回戦Ⅱ正代（右）対勝負



4回戦Ⅱ内村（右）対金成



4回戦Ⅱ安藤（右）対古川

第2ブロック

初出場の正代正博（東京）と、同じく初出場で昨年の世界大会のメンバーであった勝見洋介（神奈川）が勝ち上がり、4回戦で対戦した。両者とも慎重に相手の出方を見ながら打ちにいく。中盤、正代が跳び込み面を先取る。勝見は激しい反撃に出る。ややあつて、相面となると、正代に旗が3本上がつて勝負が決まった。

第3ブロック

初出場の選手が特に多く集まった。まず初出場の金成郁（千葉）が3回戦までを突破した。もう一方の山では内村が、初戦で鈴木啓太（山形）を小手で降し、2回戦でも萩原寿矢（大阪）に小手で二本勝、3回戦では亀井隼人（神奈川）に胴を決めて順当に駒を進めた。4回戦、金成は果敢に内村に掛かっていく。内村も小手を中心に攻める。鏑迫り合

いからの別れぎわに金成が面を打ちに跳び込むと、内村がそれを捌いて面を奪う。その後も攻防が続き、鏑迫り合いから内村が引き面を決めて2本勝した。

第4ブロック

58回大会3位の古川耕輔（大阪）が1回戦で、今回が10回出場となるベテラン・米屋勇一（埼玉）を破ると、2、3回戦と勝って4回戦進出を決

める。また、昨年学生で出場した安藤翔（北海道）が今年は警察官として出場し、4回戦まで勝ち上がり、古川と対戦することとなった。試合は、どちらも積極的な技を出す。時間内に勝負がつかず、延長に入る。剣先を細かく動かしての駆け引きが続く。延長2分、安藤が踏み出したのを見て古川が面に跳び込むが、途中で足を止める。その隙を狙って安藤が面を打って勝負が決まった。



【上】準決勝＝小谷（右） 対正代
【左】準決勝＝内村（右） 対安藤



《準決勝》

小谷明徳 メツ(延長)メ 正代正博

小谷は左右に細かく動きながら、

機会を窺って仕掛けていく。小谷は相手にじりじりと迫って面に跳び込むが決まらず。鏑迫り合いの後、再び小谷が同じように面を打つと、これは一本となる。小谷は変わらず攻める手を緩めず、正代も技数が多くなる。中盤、小谷が面から接近すると、正代は間をとって遠間からの面を決める。その後は同点のまま終了となり、延長に入る。

延長から30秒、小谷が少しずつ前へ出て行き、突きを奪って決勝進出を決めた。

内村良一 コメー 安藤翔

安藤は内村相手にも積極的に仕掛けていくが、一本となるような技は出ない。剣先の争いから安藤が一步踏み出すと、内村が潜り込むように小手を打って一本先取る。攻防が続いた後、安藤が突きにいくと、内村はそれを返して面を決めた。



内村（右）が1本目の小手を決める

《決勝》

内村良一 ココー 小谷明徳

開始直後から激しい攻防が繰り広げられる。2分経って、小谷は間合いをとって、じりじりと前に出るが、その足が止まった瞬間、内村が跳び込み、防御の姿勢になった小谷に小手を決めた。小谷は面、突きと攻め続ける。内村の竹刀が小谷の小手に絡まり、「止め」。再開直後、内村が小手、小谷が面に同時に跳び込む。小谷の面は外れるが、内村は小手を捉えて4年ぶり3回目の優勝を決めた。



小谷（左）も果敢に攻める

《選手コメント》

□準優勝Ⅱ小谷明徳五段（千葉）

「決勝戦は最高でした。あの舞台上に立てただけでも良かったと思います。いつもいろいろな方が応援に来てくれていたのに1、2回戦で負けてしまったて申し訳ないと思っていたので、恩返しができたかなと思います。」

今までは会場の空気にのまれて、気持ちが消極的になってしまったこともあったのですが、今日のように積極的に攻めていけば、自然に身体も動いてくるし、いい結果につながるのだと思いました。

これに満足することなく、来年は優勝できるよう、稽古に励みたいと思います」





古川耕輔 (大阪) 金成 郁 (千葉) 勝見洋介 (神奈川) 森 祐輔 (福岡) 安藤 翔 (北海道) 正代正博 (東京)

【第3位Ⅱ正代正博五段 (東京)】

「試合を楽しみにしていたのですが、緊張して思うように身体が動かず、集中力も切れていた所もあるので、そこを克服するのが今後の課題です。準決勝では、足も止まり、最後は小谷選手の突きに反応できませんでした。決勝まで進み、内村選手と戦いたかったです。悔しいです。もう一試合したかったです」

【第3位Ⅱ安藤翔四段 (北海道)】

「将来は内村選手のように、日本を代表するような選手になりたいと思っていますので、必ず倒すという気持ちで戦ってきました。ここまで来たからには優勝を狙っていたのですが、準決勝で簡単にやられてしまい、まだまだ力不足だと感じました。自分の剣道はもっと成長できると思うので、この悔しさを忘れずに精進していきます」

【ベスト8Ⅱ森祐輔錬士六段 (福岡)】

「結果は悔しいですが、自分の力は全て出せたので、内容に悔いはありません。ここまで上がって来られるなんて、出来過ぎですね。今日は体

が反応するままに動きました。これまではいろいろ考えて負けていたのですが、今回は考えずにいこうと。来年の大会に向けて、また頑張っていこうと思います」

【ベスト8Ⅱ勝見洋介五段 (神奈川)】

「正代選手は攻めが強く、それを意識しすぎて相手のペースに合わせたいと思いました。自分から技を出していけたら、もう少しいい試合ができたと思います。優勝を目標に大会に臨んでいましたが、いろいろと課題が残りました。また来年も選手権に出場できるよう、明日からしっかりと稽古をして力を付けたいと思います」

【ベスト8Ⅱ金成郁五段 (千葉)】

「この大会で戦うことが小さい頃からの夢でした。今回は予選で落ち着いて、稽古どおりの試合ができたので、本選出場が叶いました。今日も平常心と言い聞かせて臨みました。内村選手に打たれたのは、少し気を抜いてしまった場面ではありますが、やはりここで出るとはさすがだと思いました。実力不足でした」

【ベスト8Ⅱ古川耕輔錬士六段 (大阪)】

「初戦を大事にしていたので、米屋選手に勝てたときは、気持ちが楽になりました。胸を借りるつもりで、かかっていく剣道ができたので、あのような結果につながったと思います。今回で3回目の出場となり、3位入賞経験もありますので、その上を狙いたかったのですが、これが今の実力ですね」

ピックアップ 鳥取県から今年も ドクター剣士登場

3年前、ベスト8まで登りつめた医師・乗本志考を輩出した鳥取県から、今年も医師が登場。播本尚嗣選手は乗本の後輩で、研修医として多忙を極める中で初出場を果たした。

「出稽古や、先生から教わる機会が少ないので、後輩との自主練が中心です。稽古相手も限られます。だから常に、相手の手の内は知らないつもりで、竹刀と心と身体だけで相手の手の内を探って一本を打ち切るということを大事にしています。」

乗本さんのことはとても尊敬していますが、尊敬しすぎると、その人は越えられない存在になってしまうと思うんです。だから、尊敬はしていますし、強いと思うんですけど、何とかして越えたいと思っています」

日本武道館の単行本

著者の80年の生涯にわたる 剣道修錬を集大成した 本格的剣道修行論

好評発売中!



(写真提供) 剣道時代

目次

- 第一章 剣道
- 第二章 剣道の歴史
- 第三章 修錬・先人に学ぶ
- 第四章 剣道の極意
- 第五章 武道における「礼」
- 第六章 剣理
- 第七章 指導者としての心構え

全日本剣道連盟相談役・剣道範士九段

堀籠 敬藏 著

(四六判・上製・344頁)

剣の清流



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）



高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

（四六判・上製・564頁）



刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

（四六判・上製・346頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤 錬太郎 著

（四六判・上製・386頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

（四六判・上製・268頁）



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

（四六判・上製・274頁）

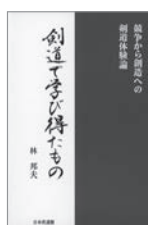


兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

（四六判・上製・344頁）



剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

（四六判・上製・298頁）



「柔の形」優勝＝横山悦子・大森千草組

2013 世界形柔道選手権大会 World Kata Judo Championships - Kyoto 2013

日本が4種目で優勝

投の形は韓国が勝利、日本は大会史上初めて金を逃す

2013 世界形柔道選手権大会（主催＝国際柔道連盟）は、10月19日、20日の2日間、京都市武道センターで開かれた。

5回目の今大会は初めての日本開催となり、30の国と地域から103組（206名）の選手が参加した。会場には3つの試合場が設けられ、初日に^{なげ}投の形、^{かた}固の形、^{かため}柔の形、2日目に^{じゅう}極の形、^{きめ}講道館護身術の、計5種目が行われた。

各国の参加組数は7組まで認められ、日本は5種目全てにエントリーし、固の形と講道館護身術では、地元京都の選手を1組ずつ加えた。結果は、柔の形で横山悦子・大森千草組が5連覇、固の形で中山智史・林聖治組、極の形で今尾省司・清水和憲組が共に2連覇、講道館護身術で京都の宮本秀樹・渡辺正喜組が初優勝を果たした。日本は以上4種目を制したものの、投の形は韓国のリ・チョ組に優勝を奪われ、第1回大会から続いていた全種目制覇の記録は途絶えた。



上、「固の形」優勝＝中山智史・林聖治組
 右、「講道館護身術」優勝＝宮本秀樹、渡辺正喜組
 下、「極の形」優勝＝今尾省司・清水和憲組





「投の形」優勝＝リ・チョ組（韓国）



「投の形」準優勝＝坂本・横山組（日本）

基本で、より深いところを学ぶのに必要だと思い、稽古してきました」
 ▽優勝Ⅱリ・ミンホ選手（韓国）
 「リ選手とは昔からの友達です。共に45歳で、段位も同じ五段です。優勝に加え、日本の選手に勝てたことは大変な名誉です」
 ▽準優勝Ⅱ坂本道人六段（福岡大教）
 「間違いがなかったわけではないが、自分たちの力は出せました。日本が優勝できなかったのは初めてなので、申し訳なく思っています」
 ▽準優勝Ⅱ横山喬之五段（摂南大教）
 「悔しい気持ちもありますが、清々しさもあります。今日できる全てを出しました」

試合は得点制により競われ、各種目で予選と決勝が行われた。予選は

（230点）。講道館護身術Ⅱ720点（240点）。

■投の形（20力国23組）

2つのグループに分けられ、各グループの上位3組、計6組が決勝に進んだ。採点は、間違いの程度によって満点から減点する方法をとり、審査員5名による採点結果の最高点と最低点を除外し、残り3名の合計点数を最終得点とした。各種目の満点は、以下のとおり（括弧内は各審査員の持ち点）。投の形・固の形・柔の形Ⅱ540点（180点）。極の形Ⅱ690点

3連覇を狙う坂本道人・横山喬之組は、予選で477点を出し、第1グループの最高得点を記録した。決勝で始めに登場したのは第2グループトップ（433点）の韓国リ・チョ組。468点で演技を終えた。その後、5番手で現れた坂本・横山組は、スピードのある演技をみせ、高得点が期待された。会場に設置された大型スクリーンには、集計が出来次第、各組の最終得点が発表されており、坂本の声と喜びの声が同時に起こった。結果は464点。リ・チョ組に4点及ばなかった。

全ての演技が終わわり、坂本・横山組はリ・チョ組に僅差で敗れて準優勝。3位はルーマニアのスラ・フレイス組が、459点で入賞した。

▽優勝Ⅱリ・ソンヒョン選手（韓国）
 「天に昇る気持ちです。形は柔道の

■固の形（12力国19組）

前回優勝の中山智史・林聖治組と地元京都の下野龍司・大館斗志爾組が出場した。予選は両組とも各グループ内で1位となり、順当に通過した。決勝は、中山・林組が3番目で登場し、450点を記録。5組終了時点でも、最も近い得点がフレッガン・モレグラ組（イタリア）の430点と、大きく差をつけて1位に付けた。最後に演技の下野・大館組に注目が集



「固の形」入賞者



「投の形」入賞者

投の形（決勝）

順位	国	取 - 受	1	2	3	4	5	最終得点	演技順
1	KOR	LEE Sunhyung - JO Minho	156	149	156	156	160	468	1
2	JPN	坂本道人 - 横山喬之	157	153	148	154	167	464	5
3	ROU	SURLA Iulian - FLEISZ Aurelian	154	152	157	150	153	459	3
4	BEL	GILON Jean-Philippe - GILON Nicolas	155	144	156	151	152	458	4
5	THA	TUMRONGLUK Pongthep - SASIPONGPAN Sangob	157	138	152	149	143	444	6
6	VIE	NGUYEN THANH Tai - NGUYEN THANH Vu	152	142	150	149	139	441	2

固の形（決勝）

順位	国	取 - 受	1	2	3	4	5	最終得点	演技順
1	JPN	中山智史 - 林聖治	144	157	154	152	143	450	3
2	JPN	下野龍司 - 大館斗志爾	140	158	148	150	131	438	6
3	ITA	FREGNAN Andea - MOREGOLA Stefano	141	141	138	148	158	430	4
4	ESP	GOICOECHANDIA Juan P - VILLAR Roberto	144	139	137	148	139	422	1
5	FRA	DEVIIENNE Roland - DEVIIENNE Nicolas	139	139	133	144	135	413	2
6	ESP	REQUENA Daniel - MEDRANO Alfredo	139	139	131	152	132	410	5



「固の形」準優勝＝下野・大館組（日本）

まったが、結果は438点。中山・林組が嬉しい2連覇を果たした。
▽優勝Ⅱ中山智史四段（中山接骨院）
「ほっとしています。いつもどおりに出来るか不安でした。結果は満足ですが、呼吸が合わないなどの細かいミスがあり、今後の課題です」

▽優勝Ⅱ林聖治四段（三橋接骨院）
「落着いて最後まで演技できたと思います。同じ種目に日本人がいて、いいプレッシャーになりました。1位、2位で終わってよかったです」
▽準優勝Ⅱ下野龍司五段（京都文教高教）
「予選から気合が入り、絶対に勝つ

という気持ちで出し切りました。結果よりそのことに満足しています」
▽準優勝Ⅱ大館斗志爾三段（京都市立音羽中教）
「ここまで出来るとは思わず、とても感動しています。機会があるなら次も挑戦したいです」

柔の形（決勝）

順位	国	取 - 受	1	2	3	4	5	最終得点	演技順
1	JPN	横山悦子 - 大森千草	148	157	162	143	155	460	5
2	ESP	GARCIA Manuel - PICAZO Vicente	143	137	138	148	150	429	4
3	GER	DAX-ROMSWINKEL Wolfgang - LOOSEN Ulla	137	153	149	139	135	425	3
4	ITA	SOZZI Ilaria - FRITTOLI Marta	142	134	144	149	134	420	1
5	FRA	DELESTRE Stephane - BAQUE Patrice	138	136	139	139	152	416	6
6	ROU	ZAHARIA Alina - CHERU Alina	140	138	138	139	136	415	2

極の形（決勝）

順位	国	取 - 受	1	2	3	4	5	最終得点	演技順
1	JPN	今尾省司 - 清水和憲	179	173	199	190	203	568	3
2	ESP	BLAS Fernando - CHUNG Uchan	196	173	188	183	179	550	1
3	FRA	BEGA Stephane - MARQUES Gregory	178	170	190	194	180	548	2
4	ITA	DE CERCE Giacomo - PADOVAN Pierluca	183	191	179	184	177	546	6
5	FRA	PARENT Andre - TABUTEAU Philippe	182	172	191	180	182	544	4
6	ITA	ROMANO Rocco - CASTANO Gaetano	183	193	176	178	182	543	5

講道館護身術（決勝）

順位	国	取 - 受	1	2	3	4	5	最終得点	演技順
1	JPN	宮本秀樹 - 渡辺正喜	192	216	232	213	208	637	1
2	KOR	KIM Donghan - SEO Jaeseung	190	203	187	208	205	598	5
3	JPN	武田武 - 宮崎純一	186	201	202	197	198	596	2
4	POR	GONCALVES Pedro - MOREIRA Paulo	191	197	186	207	201	589	3
5	ESP	GONZALEZ Maximo - VERANO Jesus	184	187	185	195	192	564	4
6	POR	COSTA Jose - COSTA Vitor	191	181	183	188	179	552	6

■柔の形（19カ国24組）
平成21年にマルタ共和国で開かれた第1回大会以来、この種目で連覇を続ける横山悦子・大森千草組に注目が集まった。予選は第2グループの最後に演技し、459点で1位通過した。決勝は5番目に登場し、460点を

記録した。結果は2位のガルシア・ピカソ組（スペイン）に31点の差をつけて庄巻の勝利。見事に5連覇を成し遂げた。
▽優勝Ⅱ横山悦子七段（平和堂APベル）
「体の小さな私が64歳という年齢で勝てたのは、自分の動きが嘉納治五

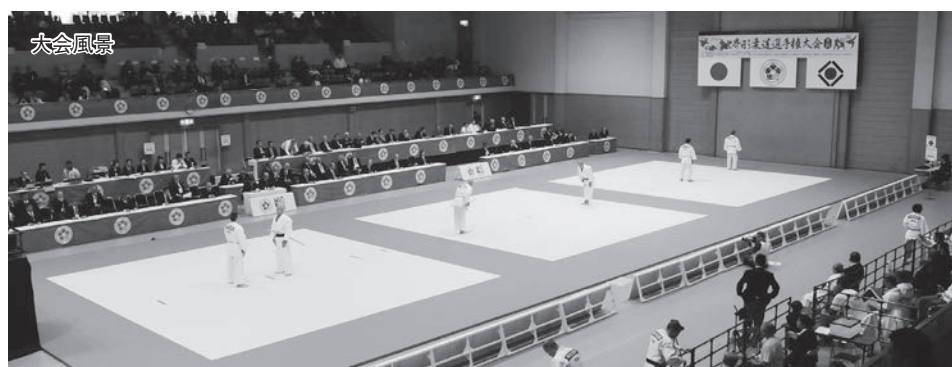
郎先生の教本に近づけたからだと思います。とにかくそれが嬉しいです」
▽優勝Ⅱ大森千草六段（大森接骨院）
「一生懸命練習したので、結果が出てよかったです。オーバーアクションにならないよう、シンプルかつ効果的な仕草にするのが大変でした」



形の組は男性同士、女性同士、男女、いずれでもよく、柔の形では優勝した横山・大森組をはじめ、女性の出場が多くみられた。右から、男性同士で準優勝のガルシア・ピカソ組（スペイン）、男女混合で3位のダックス・ローセン組（ドイツ）、女性同士で決勝進出のザハリア・チェル組（ルーマニア）



大会1日目には、京都府柔道連盟による起倒流柔術の形の演武が行われた





「極の形」入賞者



「柔の形」入賞者



「極の形」進優勝Ⅱプラス・ウカン組（スペイン）

■極の形（17カ国21組）
2年連続優勝の期待がかかる今尾省司・清水和憲組は、予選で567点をだし2位に36点の差をつけてトップで通過した。決勝は、始めにプラス・ウカン組（スペイン）が550点、次にベガ・マーケス組（フランス）が548点を記録した。3番目で登場の今尾・清水組は、安定した演技で568点を出し、前の2組を超えて暫定一位。その後、この記録を上回る演技はなく、今尾・清水組が2連覇を達成した。

■講道館護身術（13カ国16組）
共に京都府警勤務の宮本秀樹・渡辺正喜組は予選第1グループで628点を出し、2位（576点）を大きく引き離しての決勝進出。第2グループは前回優勝の武田武・宮崎純一組が2位のキム・ソ組（韓国）の576点を超える593点で予選を1位で通過した。決勝は宮本・渡辺組が1番目に演技し、637点を記録した。次も日本勢が登場。武田・宮崎組が596点で終えた。日本が1、2位を占めるかに注目が集まったが、5番目に演技したキム・ソ組が598点を出し、武田・宮崎組を2点上回った。

結果は、宮本・渡辺組が初優勝。

▽優勝Ⅱ今尾省司七段（中和医療専門学校校教）
「日本開催が重みとなりましたが、身近な人たちの応援が、大きな力となりました。今後とも精進します」
▽優勝Ⅱ清水和憲六段（アサヒテック）
「落ち着いて、普段どおり正確にやろうと考えていました。2人が綺麗に揃いすぎると崩しや作りが見えないので、あえてタイミングをずらすなどの工夫をしました」



会場に隣接の武徳殿には畳が敷かれ、練習場となった

2位キム・ソ組、3位武田・宮崎組となった。
▽優勝Ⅱ宮本秀樹五段（京都府警）
「地元枠」での出場が決まったのが今年の5月ごろ。そこから本格的に形競技の練習を始めた。
「全日本形競技大会には近畿予選で



「講道館護身術」入賞者



「講道館護身術」
下、3位Ⅱ武田・宮崎組（日本）
左、準優勝Ⅱキム・ソ組（韓国）



負けてしまい、出場さえしていません。そんな私たちが優勝できるとは思っていませんでした。予選は小さな失敗がありました。決勝は今まででなくらいの出来でした」

▽優勝Ⅱ渡辺正喜六段（京都府警）

「お互い仕事で忙しい中、選手に選ばれてからは、時間に少しでも余裕があれば道場に足を運び、講道館の合宿にも参加しました。今日は地元の人たちの応援が大きな力となりました。京都の試合はいつもこの会場

です。緊張せずに演技ができました」

▽3位Ⅱ武田武七段（警視庁）

「最後のチャンスと思って臨みまし。お互いに職場が離れてしまい、練習量がしつかり確保できませんでした。俊敏さが足りなかったのかなと感じました」

▽3位Ⅱ宮崎純一六段（警視庁）

「自分たちとしては出来たと思いましたが、周りからは『元気ないね』と言われました。これからは若い選手を育てていきたいです」

●松下三郎全日本柔道連盟形特別委員長（日本選手団団長）

大会の感想と、今後の日本の課題について伺った。

「日本の古都・京都での開催は、日本人はもちろん、外国人も望んでいたことだと思います。」

初日は投の形で日本が優勝を失いましたが、いつかこういう日が来るだろうと感じていました。外国人選手は年々実力を伸ばしています。極の形のプラス・ウカン組（スペイン）

の演技を見た時は、いい成績を残すだろうと感じました。

今回は、各種目1組ずつの出場に加え、2組出られるということ、当時の上村春樹会長にお願いして地元京都の選手に出場してもらいました。始めはその実力に不安も感じましたが、短期間でめきめきと上達していききました。宮本・渡辺組はきびきびとした動きで迫力もあり、下野・大館組も2位に入る健闘をみせました。そもそも全日本で優勝した選手を選びましたが、最近レベルが停滞しており、心配していました。それを補ったのが京都の選手でした。

今後は、若手の発掘はもちろん、過去にオリンピックなどの大きな大会で活躍した選手に形競技を行わせるのもよいと思います。日本は形の競技人口を増やすため、全日本の予選や地域の大会を盛んにし、底辺を広げる必要があると考えます」



好評
発売中

嘉納治五郎と講道館の高弟をはじめとする 日本人の手による柔道の国際的普及の歴史



柔道の国際化

— その歴史と課題 —

講道館柔道を創始し、自ら柔道を世界に広めるため尽力した嘉納治五郎。嘉納の意思を受けて海外雄飛した、講道館を代表する高弟たち。彼らは如何に、どのような思いで、普及に取り組んだのか。
数々の資料を繙き、柔道が世界的な競技となるまでの先達の足跡をたどる。そして、そこから見えてきた運動文化の国際的普及における課題とは。

四六判・上製・552頁 定価2520円(本体2400円+税)

公益財団法人講道館 図書資料部長

村田直樹 著

題字 講道館名誉館長・嘉納行光



第1章 普及への意思

柔道史の原点
欧州教育事情視察

第2章 海外への進出

米国大統領の入門
新大陸へ派遣第2号
異種格闘技に生きた前田光世
英国柔道の基礎―武道会
武道会を訪れた嘉納と高弟会田
小泉が語る英国柔道史
仏蘭西への道

メトード・カワイシとは何か
駐仏日本国大使 杉村陽太郎
続々と仏蘭西へ
海外より見た柔道―独逸通信
東洋への進出

異文化理解の容易なさ

第3章 国際柔道連盟の結成

国際柔道連盟設立の前夜
嘉納近き連盟成らず
欧州から国際柔道連盟の結成
講道館長、国際柔道連会長に就任
世界柔道選手権大会開催
東京五輪招致成功
東京五輪と正式種目柔道

パリの仇

体重別に勝ち、無差別に散る

第4章 道とスポーツ

日本の後退 欧州の前進
変わり行く柔道
不易流行



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ<http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

平成25年度講道館杯 全日本柔道体重別選手権大会 日本の頂点から 世界をめざして



90kg級決勝＝加藤（右）対ペイカー。加藤が出足払で一本勝

平成25年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会が、11月9日・10日の2日間、千葉ポートアリーナで開催、男女7階級に計429名が出場した。

男子では、90kg級・加藤博剛選手（千葉県警）、60kg級・木戸慎二選手（パーク24）が2連覇を達成。

女子では、78kg超級・高校2年生朝比奈沙羅選手（渋谷教育学園渋谷高）が初優勝に輝いた。

■男子

▽100kg 超級

昨年優勝の原沢久喜（日本大）は準々決勝で高橋和彦（新日鐵住金）に一本負。ロンドンオリンピック出場の上川大樹（京葉ガス）は準決勝でその高橋を破り、決勝で昨年2位の百瀬優（旭化成）と対戦。両者決定的な技が出ないまま試合終了。百瀬指導3、上川指導2により上川の優勢勝で初優勝となった。

●優勝Ⅱ上川大樹選手（京葉ガス）

「組手だけは徹底してやろうと思っていました。強い選手と対戦して、結果が出せたのはよかったです。今後は、外国人選手への対策をしっかりやっていこうと思います」

▽100kg 級

全日本の強化選手である羽賀龍之介（東海大）や熊代佑輔（ALSOK）らが早々と姿を消す中、決勝戦に進んだのは、前回2位の増淵樹（旭化成）と、学生体重別2位の高橋良介（明治大）。試合開始21秒、増淵は高橋の奥襟を取って内股で一本勝。増淵は嬉しい初優勝を果たした。

●優勝Ⅱ増淵樹選手（旭化成）

「まだまだやれると自信を持ちました。ただ、組手の早い選手に揺さぶられたのが課題です」

▽90kg 級

昨年優勝の加藤博剛（千葉県警）対ペイカー・茉秋（東海大）との決勝戦。ペイカーが組み合わないことに對して指導が与えられた。攻める加藤は小外刈で有効を奪う。加藤は、その後も大内返の技有、巴投の有効を決めポイントを重ねる。残り時間24秒、加藤は出足払を綺麗に決めて、2連覇を達成した。

●優勝Ⅱ加藤博剛選手（千葉県警）

一回戦から全て一本勝を収め、好調ぶりを見せた。
「一戦一戦必死だったので連覇は意識していませんでした。若い者には



100kg超級決勝＝上川（右）対百瀬



81kg級決勝＝永瀬（上）対中井。永瀬が小外刈で有効を奪う



100kg級決勝＝増淵（上）対高橋。増淵が内股で一本勝

まだ負けられないという気持ちはあります。国際大会では結果を出してないので、頑張りたいです」

▽81kg級

学生体重別2位の永瀬貴規（筑波大）は、準決勝で川上智弘（國學院大戦）を破ったロンドンオリンピック代表選手の中井貴裕（パーク24）と対戦。両者技を出しても決めきれなかった状況の中、永瀬の小外刈が有効となりポイントでリード。終盤、守りに入る永瀬は2つ目の指導をもらうが、リードを守りきって、永瀬

が初のタイトルを手にした。

●優勝Ⅱ永瀬貴規選手（筑波大）

「シニアで成績を残していなかったので、結果を出せてよかったです。日本が取れない階級といわれていたのです、自分が活躍したいです」

▽73kg級

決勝は太田慶一と栗野靖浩（共に了徳寺学園職）で争われた。積極的な技を仕掛ける両者。栗野に指導が与えられた直後の組み際、太田の大内刈が決まり、同門対決を制し、初優勝を手にした。



66kg級決勝＝丸山（上）対宮崎。丸山が大外刈で一本勝



60kg級決勝＝木戸（上）対大島。木戸が大内刈で一本勝



73kg級決勝＝太田（左）対粟野

●優勝Ⅱ太田慶一選手（了徳寺学園職）

「一戦一戦楽な試合はありませんでした。一日も無駄にせず練習してきたので、悔いがないようにという覚悟で戦え、自分らしい柔道ができました」

▽66kg級

世界選手権優勝の実績を持つ森下純平やロンドンオリンピック銀メダリストの平岡拓晃（共に了徳寺学園職）が出場したものの、初戦敗退。混戦を勝ち上がったきた丸山城志郎（天理大）と宮崎廉（桐蔭横浜大）の若手同士の決勝戦となった。開始2分40秒、丸山の太外刈が決まり、嬉しい初優勝を飾った。

●優勝Ⅱ丸山城志郎選手（天理大）

「思うように練習はできませんでしたが、優勝できて良かったです。グランドスラムは初めて出場するシニアの国際大会なので、優勝を目指していきます」

▽60kg級

昨年優勝の木戸慎二（パーク24）は、9月の学生体重別で優勝して勢いに乗る志々目徹（日本体育大）を準決勝で破って決勝へ。決勝では、全日本実業柔道個人優勝の石川裕紀

（了徳寺学園職）を準決勝で降した大島優磨（国士舘大）と対戦。開始1分、木戸が組み際から大内刈を決めて、連覇を達成した。

●優勝Ⅱ木戸慎二選手（パーク24）

「ユニバーシアードで五輪金メダリストに勝てたのが自信になりました。連覇を狙っていました」

■女子

▽78kg超級

準決勝で鳥帽子美久（東海大）を破った朝比奈沙羅（渋谷教育学園渋谷高）と、もう一つのブロック準決勝で山部佳苗（ミキハウス）を降した市橋寿々華（大阪府警）との決勝戦。両者組手からの技が決まらないまま、残り2分、市橋に指導が与えられる。その後も決め手なく時間終了となり、高校2年生の朝比奈が優勢勝を収め、嬉しい初優勝に輝いた。

●優勝Ⅱ朝比奈沙羅選手（渋谷教育学園渋谷高）

「一昨年と昨年は、簡単に負けてしまっていたので、今大会は、吹っ切れて試合に臨むことができました」

▽78kg級

昨年2位の岡村智美（コマツ）対高校1年生ながら決勝まで勝ち進ん



78kg級決勝＝岡村（奥）対浜。岡村が大外刈で一本勝



78kg超級決勝＝朝比奈（右）対市橋



57kg級決勝＝松本（奥）対宇高



63kg級決勝＝片桐（手前）対嶺井。片桐が小内刈で一本勝



70kg級決勝＝ヌノイラ（手前）対新井。ヌノイラが小内刈で一本勝

できた浜未悠（淑徳高）との対戦。岡村173cmに対し浜は161cmと、身長差は12cmの組合い。開始1分、岡村は体格差を生かして、上から浜の背中を掴み、大外刈を決め初優勝を手にした。

●優勝Ⅱ岡村智美選手（コマツ）
「やっと一番高いところが見られて嬉しいですね。世界で戦えるようにこれから頑張ります」

▽70kg級
昨年優勝の大野陽子（コマツ）は準決勝で学生体重別3連覇のヌノイラ華蓮（環太平洋大）に敗れた。もう一方のブロックを勝ち上がったのは新井千鶴（三井住友海上）。決勝はヌノイラ華蓮の小内刈が決まり、涙の初優勝となった。

●優勝Ⅱヌノイラ華蓮選手（環太平洋大）
「やつとの思いで優勝することができました。国内と変わらず、国際大会でも活躍していきたいです」

▽63kg級
前回2位の片桐夏海（コマツ）は、昨年のグラントスラム優勝の津金恵（松商学園高）を準決勝で一本勝で破った。一方のブロックでは、東アジア競技大会優勝の田代未来（コマ



48kg級決勝＝森崎（上）対遠藤。森崎が送襟絞で一本勝



52kg級決勝＝中村（奥）対志々目

ツを準々決勝で破った嶺井美穂（桐蔭学院高）が勝ち上がった。嶺井は弘巻込の有効でポイントをリードしたが、その直後、片桐の小内刈が見事に決まり、逆転の一本勝。片桐は嬉しい初優勝を手にした。

●優勝Ⅱ片桐夏海選手（コマツ）

「とにかく思い切りやろうと思っていました。技をかけきるという部分では足りないところもありました」

▽57kg級

ロンドン金メダリストの松本薫（フォーリーフジャパン）は、順当に決勝進出を果たした。相手は、準

決勝で出口クリスタ（松商学園高）を破った宇高菜絵（コマツ）。両者一歩も譲らず、技を決め切れないまま5分間が終了。2つの指導を受けた宇高が敗れ、松本の6年ぶり2回目の優勝となった。

●優勝Ⅱ松本薫選手（フォーリーフジャパン）

「一番高いところに立つのは嬉しいです。リオ五輪、東京五輪も気持ちで燃えている限りは頑張りたいと思います」

▽52kg級

ロンドンオリンピック以来の復帰戦となる中村美里（三井住友海上）

と、準決勝まで一本勝で勝ち進んできた志々目愛（帝京大）との決勝戦。奥襟を取りたい志々目に對して中村は右手で上手く落とす。志々目は中村に柔道をさせてもらえず、指導が重なり試合終了。中村は48kg級の優勝と合わせて、5年ぶり4回目の優勝となった。

●優勝Ⅱ中村美里選手（三井住友海上）

「課題が多く残った試合でした。今の力ではまだ世界では通用しません。次の試合では、納得いく形で臨みたいですね」

▽48kg級

森崎由理江（鹿屋体育大柔友会）対学生チャンピオンの遠藤宏美（筑波大）の決勝戦。残り1分過ぎ、森崎が遠藤の背中を掴むと、遠藤がいやがり体を反転させる。すると森崎は足をかけて遠藤を倒す。森崎はすかさず上に付いて遠藤の襟を掴み、そのまま送襟絞を決め、初優勝に輝いた。

●優勝Ⅱ森崎由理江選手（鹿屋体育大柔友会）

「絞め技を決めることが出来たと思つたので回り込みました。まだ実感はわきませんが、胸に日の丸をつけて優勝できるように頑張ります」

「グランドスラム東京2013 日本代表選手」

▼男子

▽100kg超級Ⅱ七戸龍（九州電力）、上川大樹（京葉ガス）、百瀬優（旭化成）、原沢久喜（日本大）

▽100kg級Ⅱ小野卓志（了徳寺学園職、増洲樹（旭化成）、羽賀龍之介（東海大）、熊代佑輔（ALSOK）

▽90kg級Ⅱ西山将士（新日鐵住金、加藤博剛（千葉県警、ベイカー・萊秋（東海大）、西山大希（新日鐵住金）

▽81kg級Ⅱ長島啓太（日本中央競馬会、永瀬貴規（筑波大、中井貴裕（パーク24）、川上智弘（國學院大職）、太田慶一（了徳寺学園職、栗野靖浩（了徳寺学園職、秋本啓之（了徳寺学園職）

▽73kg級Ⅱ中矢力（ALSOK）、福岡政章（ALSOK、丸山城志郎（天理大、高上智史（日本体育大）

▽60kg級Ⅱ高藤直寿（東海大、木戸慎二（パーク24、大島優磨（国士館大、志々目徹（日本体育大）

▼女子

▽78kg超級Ⅱ田知本愛（ALSOK）、朝比奈沙羅（渋谷教育学園渋谷高、山部佳苗（ミキハウス、稲森奈見（三井住友海上）

▽78kg級Ⅱ佐藤瑠香（コマツ）、岡村智美（コマツ）、梅木真美（環太平洋大、吉村静織（三井住友海上）

▽70kg級Ⅱ田知本遥（ALSOK）、モニイラ華蓮（環太平洋大、新井千鶴（三井住友海上、大野陽子（コマツ）

▽63kg級Ⅱ阿部香葉（三井住友海上、田中美衣（了徳寺学園職、片桐夏海（コマツ）、田代未来（コマツ）

▽57kg級Ⅱ山本杏（国士館大、松本薫（フォーリーフジャパン）、宇高菜絵（コマツ）、石川慈（コマツ）

▽52kg級Ⅱ橋本優貴（コマツ）、中村美里（三井住友海上）、志々目愛（帝京大、宮川拓美（コマツ）

▽48kg級Ⅱ浅見八瑠奈（コマツ）、森崎由理江（鹿屋体育大柔友会、遠藤宏美（筑波大、近藤亜美（大成高）

▼大会会場に託児所を開設

今大会では全日本柔道連盟の新たな取組として、託児室「全日本柔道連盟スマイルルーム」が開設された。

保育士派遣事業を展開する株式会社ポピンズのスタッフが派遣され、会場内に設けられた託児室で、大会役員、審判員、係員、監督、コーチの3～12歳の子どもを対象に児童の保育や知育教育などを行った。

今後、全日本女子選手権や全日本選抜体重別選手権などでも開設される予定になっている。

●北田典子全日本柔道連盟理事

「山下泰裕副会長からご提案をいただきました。その後、託児室を開設している他競技の大会を視察して、



会場内の一室に開設された託児室内の様子

今回の開設に至りました。ゆくゆくは選手が子どもを預けて大会に出場できるようになればと思います」

▼国内ポイントシステムを導入

全日本柔道連盟は11月8日、平成26年度から国内ポイントシステムを導入することを発表した。

オリンピックや世界選手権に派遣される出場選手の決定は強化委員会の選考によるが、今回、ポイントシステムを導入することで、新たな判断基準として活用したい考え。

国内の全日本選手権、全日本女子選手権、全日本選抜体重別、講道館杯や国際大会の結果に応じて、各選手にポイントを振り分け、各階級の選手をランキング化する。

大きな特徴として、国際大会の日本人をのぞく出場選手のIJFランキングに応じて、階級毎にその大会の格付けを決定し、獲得ポイントが変動すること、過去4年間にオリンピックや世界選手権、マスターズで優勝した選手との直接対決を制した選手には加点があることである。

平成26年度以降、全柔連ホームページなどに掲載される予定。

【大会結果】

◆男子	優勝		2位		3位	
100kg超級	上川大樹 (京葉ガス)	(初優勝)	百瀬 優 (旭化成)		原沢久喜 (日本大)	岩尾敬太 (京葉ガス)
100kg級	増渕 樹 (旭化成)	(初優勝)	高橋良介 (明治大)		齋藤 俊 (新日鐵住金)	乙津瑞希 (颯ブランドシステム)
90kg級	加藤博剛 (千葉県警)	(2年連続2回目)	ペイカー茉秋 (東海大)		西山大希 (新日鐵住金)	菅原健志 (パーク24)
81kg級	永瀬貴規 (筑波大)	(初優勝)	中井貴裕 (パーク24)		川上智弘 (國學院大職)	小原拳哉 (東海大)
73kg級	太田慶一 (了徳寺学園職)	(初優勝)	栗野靖浩 (了徳寺学園職)		秋本啓之 (了徳寺学園職)	中村剛教 (大阪府警)
66kg級	丸山城志郎 (天理大)	(初優勝)	宮崎 廉 (桐蔭横浜大)		高市賢悟 (東海大)	六郷雄平 (明治大)
60kg級	木戸慎二 (パーク24)	(2年連続2回目)	大島優磨 (国士舘大)		志々目徹 (日本体育大)	川端 龍 (了徳寺学園職)
◆女子						
78kg超級	朝比奈沙羅 (渋谷教育学園渋谷高)	(初優勝)	市橋寿々華 (大阪府警)		烏帽子美久 (東海大)	山部佳苗 (ミキハウス)
78kg級	岡村智美 (コマツ)	(初優勝)	浜 未悠 (淑徳高)		梅木真美 (環太平洋大)	吉村静織 (三井住友海上)
70kg級	ヌンイラ華蓮 (環太平洋大)	(初優勝)	新井千鶴 (三井住友海上)		上野巴恵 (自衛隊体育学校)	大野陽子 (コマツ)
63kg級	片桐夏海 (コマツ)	(初優勝)	嶺井美穂 (桐蔭学園高)		田代未来 (コマツ)	大住有加 (JR東日本)
57kg級	松本 薫 (フォーリーフジャパン)	(6年ぶり2回目)	宇高菜絵 (コマツ)		石川 慈 (コマツ)	出口クリスタ (松商学園高)
52kg級	中村美里 (三井住友海上)	(5年ぶり3回目*)	志々目愛 (帝京大)		垣田恵利 (兵庫県警)	五味奈津美 (JR東日本)
48kg級	森崎由理江 (鹿屋体育大教員)	(初優勝)	遠藤宏美 (筑波大)		近藤亜美 (大成高)	山岸絵美 (三井住友海上)

*中村は平成17年に48kg級で優勝。

◇平成25年度全国警察柔道大会

警視庁が兵庫県警を降して優勝

平成25年度全国警察柔道大会が、10月22日に日本武道館で開催された。試合は団体戦で、第1部（12チームが出場）、第2部（18チームが出場）、第3部（18チームが出場）に分かれて行われた。

第1部では、警視庁が前年度優勝の兵庫県警察を破って優勝した。第2部は千葉県警察が、第3部は宮崎県警察が優勝した。



決勝、警視庁の大將・棟田（右）が支釣込足による一本で優勝を決めた

第1部は7人制で、3チーム一組のリーグ戦を行い、その首位チームが、準決勝以降トーナメントで戦う。

4分間一本勝負で、勝負がつかない場合は引き分けとなる。チームの勝敗は勝者数で決するが、同数の場合は内容差で決まる。

リーグ戦の結果、トーナメントに進出したのは、前回優勝の兵庫、神奈川、警視庁、愛知の4チーム。準決勝では、兵庫が神奈川に6対1で、警視庁が愛知に5対1でそれぞれ勝って、決勝に進んだ。

決勝の先鋒戦は、警視庁・小寺が体落で有効を奪って1勝目をあげる。続く次峰戦は兵庫・松本が勝って1対1に。五将戦、兵庫・浦瀬が警視庁・小出の腕をとると、小出は「参った」。中堅戦は引き分ける。三将戦は兵庫・長尾が技有を奪って、3対1となる。後のない警視庁は、副将でキャプテンの岩上が、兵庫・木下を返して一本勝して、大將戦に望みを繋げた。

3対2で迎えた大將戦、警視庁はベテランの棟田が開始直後に得意の支釣込足を仕掛けると、兵庫・山本は背中をついて一本。勝者数は3対

3と引き分けるが、一本勝2つで差をつけた警視庁が優勝した。

□警視庁・園田雅明監督

「選手には、攻めなければ勝てないし、引き分けにもできない。ちょっとした怯んだら必ず負けるから、気持ちで負けないよう最後まで攻め切れと言いました。今年はチャレンジャーとして打倒兵庫を目標に、キヤプテンの岩上を中心によくまとまり、良いムードの中、みんな厳しい稽古に1年間よく耐えました」

□警視庁・棟田康幸選手

「今年は岩上がチームをまとめて、雰囲気も良く、一丸となって戦ったのが良かったと思います。最近、自分はやっぱ柔道が好きだということを感じます」

【大会結果】

▽第1部 ①警視庁②兵庫県警察③神奈川県警察

▽第2部 ①千葉県警察②熊本県警察③和歌山県警察

▽第3部 ①宮崎県警察②新潟県警察③皇宮警察

◇平成25年度全国警察剣道大会

警視庁が大阪を破って優勝

平成25年度全国警察剣道大会が、10月21日に日本武道館で開催された。試合は団体戦で、第1部（12チームが出場）、第2部（18チームが出場）、第3部（18チームが出場）に分かれて行われた。

第1部では、警視庁が前年度優勝の大阪府警察を破って優勝した。

第2部は長崎県警察が、第3部は高知県警察が優勝した。

第1部は7人制で、3チーム一組のリーグ戦を行い、その首位チームが、準決勝以降トーナメントで戦う。5分間3本勝負で、勝負がつかない場合は3分間の延長を行い、それでも決しないときは引き分けとなる。

第1部の勝敗は勝者数で決する。チームの勝敗は勝者数で決する。リーグ戦の結果、トーナメントに進出したのは、前回優勝の大阪、京都、警視庁、兵庫の4チーム。準決勝では、大阪が京都に4対2で、警

視庁が兵庫に4対2でそれぞれ勝って、決勝に進んだ。

決勝の先鋒戦は、警視庁・林が先取るも、大阪・江島が面を2本決めて江島が勝つ。次峰の大阪・升田と警視庁・川崎は引き分ける。五将戦は警視庁・越川が小手、面と連取して1勝目をあげる。続く中堅戦でも警視庁は正代が小手と面の二本勝。三将戦は警視庁・高橋が小手で一本勝して3対1となる。副将戦では警視庁・畠中に反則が重なり、大阪・友井に一本が与えられる。畠中は突きで一本取り返すも、友井も面を決めて、友井の二本勝。

ここまでで警視庁の本数が7本と

なったため、4本の大阪は、大將戦で引き分けても本数で警視庁には及ばないことになる。

大將戦では警視庁・内村が得意の小手で大阪・古川を降し、警視庁が優勝した。

□警視庁・内村良一選手

「みんなの戦いぶりが素晴らしく、頼もしく思いました。全員でチームのために頑張り、警視庁の先生方がバックアップしてくださったこと、手にすることができた優勝です」

【大会結果】

▽第1部 ①警視庁②大阪府警③兵庫県警察

▽第2部 ①長崎県警察②埼玉県警察③香川県警察

▽第3部 ①高知県警察②富山県警察③徳島県警察



決勝五将戦で警視庁・越川（奥）の小手が決まる



第61回全日本学生剣道優勝大会

筑波大が2年ぶり11度目V



決勝代表戦＝筑波・竹ノ内（左）が面を決めて勝負あり

第61回全日本学生剣道優勝大会（主催Ⅱ全日本学生剣道連盟・毎日新聞社）は11月4日、日本武道館で開催され、全国各地の予選を勝ち抜いた64大学が出場し、鏑を削った。大会は決勝で筑波大が法政大を代表戦の末に制して、2年ぶり11度目の優勝を飾った。

大会は7人の団体制で行われ、試合時間は5分、3本勝負とし、勝敗が決しない場合は、引き分けとした。チームの勝敗は勝者数によって決め、同数の場合は総取得本数で決した。勝者数、総取得本数も同数の場合は時間無制限の一本勝負で行われる代表戦で勝敗を決した。

◇ 前回優勝の国士舘は3回戦で日本体育に敗れ、勝った日本体育はそのまま準決勝に進出。関東大会3位の筑波は順当に勝ち上がり、4強入り。九州の強豪、鹿屋体育は3回戦で姿を消し、勝った早稲田がベスト4に上がった。また、法政も慶應義塾との準々決勝を制して、4強に名を連ねた。

準決勝第一試合は筑波対日本体

育。筑波は先鋒から3連勝し、王手をかけると、副将の竹ノ内が二本勝で勝負を決めた。

準決勝第二試合は法政対早稲田。法政は先鋒、三将、大将が勝ち星を上げて、3―1で決勝に進出した。

▼決勝

筑波	1代―1	法政
林田匡平	―ド	平井仁志
加納彰大	―	塩谷匡彬
山下和真	―	日下達基
木立 快	―	米満広将
佐藤弘隆	―	東郷知大
竹ノ内佑也	―	北川清太
山下 渉	メーコ	秀徳信彰
(代表戦)		
竹ノ内佑也	メー	秀徳信彰

先鋒戦、開始2分過ぎ、法政・平井は筑波・林田の隙を見逃さず、胴を奪って、一本勝で法政が先制した。次鋒戦から三将戦までを引き分けて迎えた副将戦。筑波の副将は竹ノ内だったが、法政の北川は竹ノ内の猛攻をうまく捌き、引き分けで大将戦に回した。

大将戦、逆転をかける筑波は主将の山下（渉）が登場。山下（渉）は



決勝大将戦＝筑波・山下（渉）
対法政・秀徳

●優勝Ⅱ山下渉選手（筑波）

「嬉しいですね。4年間稽古してきた成果が出ました。決勝の大將戦は負いなく臨めました。今後は地元の香川に戻って、高校教員になりたいと思っています。いずれは生徒を日本一にしたいですね」

●優勝Ⅱ竹ノ内佑也選手（筑波）

「代表戦の相手は高校の先輩だったので胸を借りるつもりでいました。しかし、こちらは筑波で専門的に剣道を稽古している身分なので、負けわけにはいきませんでした」

代表戦、筑波は竹ノ内、法政は秀徳。奇しくも同じ福岡大附大濠高の先輩・後輩同士での対戦となった。竹ノ内は3分過ぎ面に飛び込むと、秀徳はこれを避けきれず、一本。筑波が2年ぶり11度目の優勝を決めた。

●優勝Ⅱ銅山隆弘監督（筑波）

「関東大会ではいいところで負けてしまい、上級生の力のなさが出てしまいました。この大会に向けて、上級生には目標を持って稽古をしろと言ってきました。その中で今日は山下（渉）がいい仕事をしてくれました。奮起してくれたんだと思います」



優勝＝筑波大

第32回全日本女子学生剣道優勝大会

国士舘大が23年ぶりに優勝

第32回全日本女子学生剣道優勝大会（主催Ⅱ全日本学生剣道連盟・毎日新聞社）は11月10日、愛知・春日井市総合体育館で開催された。大会には全国8地域連盟の予選を勝ち抜いた56大学が出場し、覇を競った。

試合は国士舘大が決勝で大阪教育大を破って、見事に優勝。23年ぶり7度目の栄冠を掴んだ。

大会は5人の団体戦で、試合時間は4分、その他の試合形式については男子と同様に行われた。

前年度優勝の鹿屋体育は3回戦で國學院に、同準優勝の筑波は初戦で福岡に敗れる波乱の展開。優勝候補筆頭と見られた関東王者の法政も準々決勝で日本体育を相手に涙を吞んだ。

その中で準決勝に勝ち上がったのは国士舘、日本体育、大阪教育、大阪体育の4大学。

準決勝で国士舘が日本体育を1-0で降し、大阪教育は大阪体育を0-0からの代表戦で制して、決勝に進出した。

▼決勝

国士舘	3-1	大阪教育
田村久美	1	山本千尋
亀井麻里	メー	牧野裕子
山本瑠子	1-メ	水杉育未
伊藤藍子	メー	竹田香波
末弘夏菜	コメー	小森田渚

先鋒戦を引き分けて、次鋒戦は国士舘・亀井が一本勝で先制。中堅戦大阪教育・水杉が一本勝して星を五分に戻す。副将戦は国士舘・伊藤が一本勝し、国士舘が優勝に王手をかけた。

3年生ながら大将に起用された国士舘・末弘は、大阪教育・小森田から小手、面と二本奪って勝利を収め、国士舘が23年ぶり7度目の優勝を勝ち取った。

好評発売中



スポーツドクター **辻 秀一** 著
四六判・上製・248 ページ

武道やスポーツは「医療である、芸術である、コミュニケーションである、教育である」とする筆者が、指導者のために書いた良きハンドブック。ぜひ、ご一読を。



主な目次

- 第1章 「文武両道」の人間教育
- 第2章 真剣勝負を楽しみ、人間的成長を図る
- 第3章 「セルフイメージ」という心のエネルギー
- 第4章 トップアスリートに学ぶ「社会力」
- 第5章 たかが目標、されど目標
- 第6章 「武士道書」に学ぶ
- 第7章 子どもたちの「社会力」を育てる
- 第8章 「オンリーワン」の子どもを育てる

武道・スポーツの真髄

ほんとうの価値の伝え方

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

（翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット）

（B5判・上製・DVD付・336頁）



武士道に学ぶ

東京大学大学院教授

菅野 覚明 著

（四六判・上製・344頁）



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

（四六判・上製・278頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



<増補版> 私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

（四六判・上製・326頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

（四六判・上製・274頁）



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

（四六判・上製・220頁）



国際武道大学創立 30 周年記念式典・祝賀会

30 年の節目に さらなる発展と繁栄を誓う

国際武道大学が、今年で創立30年を迎えた。これを記念して、10月19日、日本武道館研修センター大道場にて記念式典・祝賀会を開催した。式典には大学教職員および関係者約500名が出席した。

式典は午前11時30分、松前義昭副理事長の開式の辞により始まった。

その後、国歌斉唱、建学訓唱のの後、松前達郎理事長が、「国際武道大学は、創立以来各方面からのご支援をいただきながら、順調に年を重ね今日を迎え、その間、1万2500名以上の卒業生を社会に送り出すことができました。本学の発展にご協力いただいております関係各位に心から感謝を申し上げます」と挨拶した。

次に、永年勤続者表彰を行った後、松永光日本武道館会長が来賓祝辞に立ち、「初代理事長の松前重義先生、二代目の松前達郎先生の大変なご努力で、大学は立派に運営されてきました。国際的に活躍できる武道指導者を育成するという目的に従い、成長させてくれたことに敬意を表します」と述べた。

続いて校歌斉唱の後、蒔田実学長が閉式の辞を述べた。

その後、柔道形の演武が行われた。最初に、投の形の演武が、取・大島修次七段（1987年度卒業生）、受・川上良太参段（2012年度卒業生）で披露された。続いて、講道館護身術の演武が、取・濱名智男七段（1987年度卒業生）、受・山崎正義七段で披露された。世界柔道形選手権大会優勝者による形演武により、凜とした余韻を残し、記念式典は終了した。



松前達郎国際武道大学理事長



松永光日本武道館会長



柔道形の演武

祝賀会では開会の挨拶を松前義昭副理事長が、その後、猿田寿男勝浦市長が、「勝浦市の人口の1割が武道大学の学生さんということで、勝浦の活気は、まさに武道大学の学生さんが造り上げていると思っています。これからも、学・官・民で素晴らしい勝浦を造っていききたいと思います」と乾杯の挨拶をした。祝賀会は、終始なごやかに進み、約1時間の歓談の後、尾郷良幸副理事長が閉会の挨拶を述べ、祝賀会は盛会の裡に閉会した。



祝賀会では、猿田寿男勝浦市長の発声により乾杯が行われた